

佳作

すいかだ!

鹿児島県 知名町立田皆小学校一年 田中 琉介

「もうすこし、みぎ、みぎ。」

ぼくは、めかくしをして、ぼうをもってよろよろあ
るいた。ここがすいかだとおもったぼくは、てにも
っていたぼうでちからいっぱいたたいた。そうした
ら、すいかには、ちよっぴりひびがはいり、へこ
んだ。

このすいかは、ともひろくんのおとうさんがそだ
てたすいかだ。ぼくが、もちあげようとしても、お
もたくてもちあげられなかった。とてもりっぱなす
いかだった。

ともひろくんのはたけには、たくさんのおやさいが
なっていた。ぼくといもうとは、ぼくのきらいなど
まもと、おいしそうなきゅうりと、たくさんのお
もろこしと、おおきなびいまんをとらせてもらった。
やさいをとるのは、たのしかった。とくに、とうも

ろこしをとるとき、ぼきぼきおとがして、おるよう
なかんじがおもしろかった。やさいをとっている
とき、ともひろくんのおとうさんは、うれしそうなか
おでぼくたちをみていた。ぼくは、やさいをとりな
がら、やさいをつくるひとは、すごいなおもった。
こんなにくさんのやさいをそだてられるなんて。
そのとき、ぼくもやさいをつくるひになりたいと
おもった。

だから、ぼくは、すいかのたねをはちにうえてみ
た。そうしたら、ほそながいめがでてきた。かわい
いはっぱもはえてきた。はっぱは、きみどりいろで、
しろいけが、いっぱいいていた。さわってみると、
ふわふわだった。ぼくは、どんなはながさくのかわ
くわくしていた。みっかぐらいたつと、ちいさなき
いろいはながさきだした。そのはなは、あさになる
とさいて、ゆうがたになると、しぼんだ。そして、
つぎのあさになると、またさいた。ぼくは、とても
びっくりした。しぼんだはなが、あさになるとまた
さくなんて、まるで、いきものみたいだとおもった。
にがっきになり、がっこうがはじまった。ぼくは、
がっこうからかえってくるとき、すいかはどうなっ
ているのだろうかとおもって、みにいった。すいかだ

とおもったぼくは、

「おかあさん、すいかなってるよ。」

と、おおきなこえでいった。

「ほんとに。」

と、おかあさんは、にこにこしながらみにきた。すいかは、ぼくのでのひらよりすこしちいさくて、まるくて、うすいけどくろいせんがあった。まだ、ちいさいけど、ちゃんとすいかのかたちをしていた。ぼくは、じぶんでそだてたすいかが、できたことがとてもうれしかった。

ぼくは、このすいかが、ともひろくんのおとうさんのつくったすいかとおなじくらい、おおきくなつてほしい。だから、これからもみずかけやくさとりをがんばろうとおもった。おおきくてりっぱなすいかなになったら、またばばとママともうとおとうととばあばといっしょにすいかわりをしたいな。